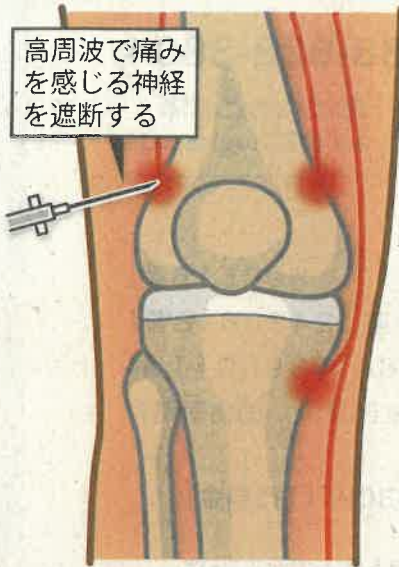


膝関節痛 高周波で緩和

徳大病院 新治療法 県内初導入

変形性膝関節症の新治療法



徳島大学病院（徳島市）が、高周波を用いて膝関節の痛みを緩和する新たな治療法「クリーフ末梢神経焼灼療法」を県内で初めて導入した。薬などを用いる保存療法よりも痛みを取り除く効果が期待できる上、体への負担が少ないため、患者にとっては治療の選択肢が広がる。

新治療法の対象となるのは「変形性膝関節症」。加齢や過度な負荷によって膝関節のクッションの役割を担う軟骨がすり減り、骨が変形して痛みが生じる病気で女性や肥満の人に多い。患者数は国内で約1千万人に上るとされる。

これまでは、痛みを緩和させる消炎鎮痛剤の投与や膝関節へのヒアルロン注射などが一般的だったが、効

果や持続性が十分に得られないケースもあった。人工膝関節を入れる手術もあるが、1カ月以上の入院が必要で患者の負担は少ない。

新治療法は局所麻酔を使い、膝関節の周辺3カ所に専用の針を刺して電極を挿入。痛みを伝える3本の神経に高周波を当て、60度の熱で痛みを感じる神経を遮断する。治療時間は片膝で30分程度という。効果は半年から2年程度持続し、保存療法と手術の間を埋める役割が期待される。

2023年6月に公的医療保険が適用され、全国でも導入している医療機関はまだ少ない。徳島大学病院は今年4月に導入し、これまでに約10人が治療を受け

た。

徳島大学病院整形外科の和田佳三特任准教授は「今後、症例を増やし、治療効果を長く維持する研究も進めていきたい」と話している。

（山口和也）

徳島新聞令和7年7月28日掲載
コピー、転載禁止